

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	宮崎 高裕
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	畦内 一夫

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	工芸館開館に向けたイベント等の開催	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	976,144 (H30)	823,786 (R1)	C
施策2	いしかわの優れた文化の創造と発信	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	112,000 (R4)	111,603 (H30)	121,012 (R1)	A

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み					評価	
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性	
					(年度)	(年度)							
施策1	課題	工芸館開館に向けたイベント等の開催	美術館入館者数	人	472,500 (R4)	529,858 (H30)	403,763 (R1)	1 国立工芸館名品展開催費	一般県民	5,000	5,000	A	廃止
			兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	976,144 (H30)	823,786 (R1)	2 外国人向け伝統文化魅力発信事業費	外国人	11,000	10,945	B	統合
			芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,500 (R1)	13,902 (H30)	11,797 (R1)	3 外国人向け伝統芸能鑑賞ガイドシステム導入事業費	外国人	4,000	4,000	B	統合
施策2	課題	いしかわの優れた文化の創造と発信	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	976,144 (H30)	823,786 (R1)	4 「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」普及啓発事業費	一般県民	5,200	5,200	B	継続
								5 兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業費	一般県民	21,000	20,878	B	統合
								6 いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	11,500	10,782	B	継続
								7 「いしかわジュニアアートステージ」開催費	高校生以下	7,500	7,500	A	拡大
								再 外国人向け伝統文化魅力発信事業費	外国人	11,000	10,945	B	統合
			美術館入館者数	人	472,500 (R4)	529,858 (H30)	403,763 (R1)	8 美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	20,763	14,475	B	継続
			9 文化財保存修復工房魅力発信事業費	一般県民	1,400	1,115	B	継続					
			歴史博物館入館者数	人	165,000 (R4)	174,753 (H30)	151,807 (R1)	10 歴史博物館特別展示費	一般県民	37,136	36,200	B	継続
			石川四高記念文化交流館入館者数	人	200,000 (R4)	202,803 (H30)	201,861 (R1)	11 石川四高記念文化交流館事業費	一般県民	16,019	12,999	A	継続
能楽堂入館者数	人	54,000 (R4)	49,363 (H30)	48,445 (R1)	12 いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	6,000	3,316	B	継続			

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	宮崎 高裕
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	畦内 一夫

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	工芸館開館に向けたイベント等の開催	兼六園周辺文化施設入館者数	人	913,000 (R4)	976,144 (H30)	823,786 (R1)	C
施策2	いしかわの優れた文化の創造と発信	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	112,000 (R4)	111,603 (H30)	121,012 (R1)	A

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題					課題に対する主な取り組み					評価			
施策	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性	
					(年度)	(年度)							
施策2	課題 いしかわの優れた文化の創造と発信	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,500 (R1)	13,902 (H30)	11,797 (R1)	13 文化活動支援事業費・若手芸術家活動支援事業費	一般県民	80,000	70,147	A	継続	
							14 子どものための音楽文化推進事業費	小学生	2,300	1,709	B	継続	
							15 子ども芸術鑑賞推進事業費	小中学生	4,012	2,812	B	継続	
							16 県民移動能実施事業費	小中学生	3,000	3,000	B	継続	
							17 障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	一般県民	1,000	1,000	B	継続	
							再 外国人向け伝統芸能鑑賞ガイドシステム導入事業費	外国人	4,000	4,000	B	統合	
							18 いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭来場者数	一般県民	58,000	96,705	A	継続	
							19 いしかわミュージックアカデミー参加者数	一般県民	20,140	20,140	B	継続	
							音楽堂入場者数	20 音楽堂自主事業費補助金	一般県民	15,000	15,000	B	継続
								21 地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,000	10,000	B	継続
								再 子どものための音楽文化推進事業費	小学生	2,300	1,709	B	継続
							音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	22 伝統芸能技能向上支援事業費	一般県民	4,000	3,750	B	拡大
								再 いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	小中学生	11,500	10,782	B	継続
再 「いしかわジュニアアートステージ」開催費	高校生以下	7,500	7,500	A	拡大								

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	国立工芸館名品展開催費	事業開始年度	H28	事業終了予定年度	R1	作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	主任主事 金田 直樹
						者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3856

**1 事業の目的**  
 東京国立近代美術館工芸館が、2020年を目途に本多の森に移転することが決定したことを受け、工芸館が所蔵する全国の工芸作家の作品を展示するほか、日本や石川の工芸に関する様々な関連イベントを工芸館と連携して行うことにより、工芸館移転のPRと気運醸成を図りつつ、工芸の魅力を来館者に知っていただき、文化立県石川の個性と魅力に厚みを加えることを事業の目的とする。

**2 事業の概要**

(1) 東京国立近代美術館工芸館名品展  
 内 容: 工芸館の所蔵する作品のうち、本県が全国に誇り、数多くの著名な作家を輩出してきた「漆工芸」の作品を中心に「木工」、「竹工」などの作品を含め48点展示  
 開催期間: 令和元年11月22日(金)～12月22日(日)(31日間)

(2) 講演会  
 内 容: 名品展のテーマに関係した講演会  
 開催日: 令和元年12月8日(日)

(3) ギャラリートーク  
 内 容: 名品展の展示作品を東京国立近代美術館工芸課長や石川県立美術館の学芸員が解説  
 開催日: 令和元年11月22日(金)、12月22日(日)

(4) 県・市文化施設と連携した関連イベント

① 伝統産業工芸館ワークショップ  
 内 容: 名品展のテーマの一つである「竹工」に合わせ、茶杓制作体験を実施  
 開催日: 令和元年11月24日(日)

② 中村記念美術館特別展「京都の工芸 近代から現代まで～京都国立近代美術館所蔵品を中心に～」  
 内 容: 京都国立近代美術館所蔵作品と館蔵品を合わせた特別展を開催  
 開催期間: 令和元年11月1日(金)～12月15日(日)

(5) 加賀地区・能登地区での関連イベント

① 石川県九谷焼美術館「絵付けの魅力」  
 内 容: 工芸館の所蔵する「陶磁」作品から、地元ゆかりのある色絵磁器を中心に40点展示  
 開催期間: 令和元年11月1日(土)～12月15日(日)

② 石川県七尾美術館「人間国宝を中心に・陶磁器の美と技」  
 内 容: 工芸館の所蔵する「陶磁」作品から、人間国宝の名品を中心に45点展示  
 開催期間: 令和元年12月14日(土)～令和2年2月11日(火・祝)

(6) 首都圏での関連イベント(会場: 東京国立近代美術館講堂)  
 講演会&ミュージアムコンサート「工芸が繋ぐ東京と石川・金沢」 ※新型コロナ感染拡大予防のため中止

**3 これまでの見直し状況**  
 特になし

施策・課題の状況							
施策	工芸館開館に向けたイベント等の開催					評価	C
課題	工芸館開館に向けたイベント等の開催						
指標	美術館入館者数				単位	人	
目標値	現状値						
令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
472,500	448,456	467,339	433,334	529,858	403,763		
事業費							
(単位:千円)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
事業費	予算		2,500	3,000	4,000	5,000	
	決算		2,500	3,000	4,000	5,000	
一般	予算		1,250	1,500	2,000	2,500	
財源	決算		1,250	1,500	2,000	2,900	
事業費累計			2,500	5,500	9,500	14,500	
評価							
項目	左記の評価理由						
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; text-align: center; margin: 0;">A</p> 令和元年度は、本県に最もなじみの深い「漆工」及び「木工」「竹工」分野における全国の人間国宝の作品を中心に展覧会を開催した結果、過去10年間の同期間(11月22日～12月22日)の常設展と比較して、最多の6,391人が来場した。平成28年度から延べ27,896人が当事業の展覧会に来場し、令和2年度の開館に向けて気運醸成を図ることができた。						
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; text-align: center; margin: 0;">廃止</p> 令和2年度に国立工芸館が開館するため、開館に向けての気運醸成事業として行ってきた本事業は廃止する。今後は、兼六園周辺文化の森の文化施設と国立工芸館を連携させることで、このエリアの魅力を広く発信していく。						

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 外国人向け伝統文化魅力発信事業費	<b>事業開始年度</b> R1	<b>事業終了予定年度</b>
	<b>根拠法令・計画等</b> いしかわ文化振興条例	

<b>作</b>	組	織 文化振興課
<b>成</b>	職・氏名	主任主事 高橋 峻也
<b>者</b>	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3851

**事業の背景・目的**

ラグビーワールドカップ(2019年)や東京オリンピック・パラリンピック(2020年)を控え、今後、更に外国人観光客の増加が見込まれるため、伝統文化・伝統工芸・歴史を扱う文化施設が集積する「兼六園周辺文化の森」において、外国人が、本県の多様な文化を体験する機会や受入環境を充実し、本県が誇る質の高い文化を発信する。

**事業の概要**

(1)外国人向け文化体験メニューの充実

① 文化体験イベント

- <時期> 2019年10月 計10日
- <会場> 美術館、歴史博物館、能楽堂、伝統産業工芸館
- <内容>
 

書道体験(美術館)	: 和室での書道体験
歴史体験(歴史博物館)	: 甲冑などを実際に装着
能楽体験(能楽堂)	: 能舞台で能面などを装着
工芸体験(伝統産業工芸館)	: 金箔貼り

② 兼六園周辺文化の森魅力探訪ツアー

- <内容> 兼六園周辺の文化施設を通訳ガイドによる解説付きで巡るツアー
- <対象> 外国人観光客、県内留学生・国際交流員ほか
- <時期> 2019年7月及び10月 計5日 (各回10～20人程度)

(2)受入態勢の強化

各文化施設のホームページやパンフレットの充実(英・中・台・韓)□

これまでの見直し状況

施策・課題の状況					
<b>施策</b>	工芸館開館に向けたイベント等の開催	<b>評価</b>	C		
	いしかわの優れた文化の創造と発信	<b>評価</b>	A		
<b>課題</b>	工芸館開館に向けたイベント等の開催				
	いしかわの優れた文化の創造と発信				
<b>指標</b> 兼六園周辺文化施設入館者数		<b>単位</b>	人		
<b>目標値</b>		<b>現状値</b>			
令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
913,000	892,998	907,035	862,986	976,144	823,786

事業費						
(単位:千円)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
<b>事業費</b>	<b>予算</b>					11,000
	<b>決算</b>					10,945
<b>一般財源</b>	<b>予算</b>					5,500
	<b>決算</b>					6,945
<b>事業費累計</b>		0	0	0		10,945

評価		
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>
<b>事業の有効性</b>  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<b>B</b>	文化体験イベントでは414人、探訪ツアーでは43人の外国人観光客の参加があった。 R元年度はトライアルの位置づけで実施し、参加者アンケートやインバウンド対策の専門家の意見により、情報発信や開催時期、価格設定など、R2年度の本格実施に向けた課題も発見することができた。
<b>今後の方向性</b>  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<b>統合</b>	東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、本県の文化を発信する絶好の機会を活かし、秋だけであった開催期間を夏から冬に拡大するとともに、これまでの参加者の意見を活かして、文化体験と施設ガイドツアーをセットで実施することにより、本県の質の高い文化をより深く堪能していただく。また、R2年度からは、「加賀百万石文化めぐり」事業に統合して実施することで、年間を通した文化イベントの一体的な広報を行い、参加者の確保に努める。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	外国人向け伝統芸能鑑賞ガイドシステム導入事業費	事業開始年度	H30	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主任主事 三浦 奈緒美		
者	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853			

**事業の背景・目的**  
 外国人観光客の増加が見込まれる2020年に開催される東京オリンピックを見据え、外国人観光客に対して、本県が誇る伝統芸能(能、茶屋文化)に気軽に触れることができる機会を提供する。  
 日本人と外国人と一緒に鑑賞する通常の公演において、外国人の鑑賞をサポートする機器を鑑賞者に貸し出し、伝統芸能の外国人観光客等への鑑賞機会の拡大を図る。

**事業の概要**

- 1 対象者  
外国人鑑賞者
- 2 事業概要
  - (1) 能楽鑑賞(場所: 県立能楽堂)
    - ・鑑賞機会: 観能の夕べ 夏: 7月～8月(全9回) 冬: 1月～3月(全5回)
    - ・ガイドシステム: 英語の解説が流れる「タブレット」を貸出(30台/回)
    - ・ガイドシステムの内容  
公演中の能楽師の動きや台詞に連動して画面上に字幕やイラストが表れ、英語表記により台詞や場面を解説  
(公演の待ち時間には、能の基礎知識や能舞台をイラストを交えて解説)
  - (2) 茶屋文化体験(「金沢芸妓の舞」)(場所: 県立音楽堂和室)
    - ・鑑賞機会: 芸妓の舞 令和元年10月～2年3月(通常公演全30回)
    - ・ガイドシステム: 英語の解説が流れる「音声ガイドシステム」を貸出(20台/回)
    - ・ガイドシステムの内容  
茶屋文化(歴史等)、お座敷芸、お座敷遊びのルールや遊び方について、演目プログラムごとに解説

施策・課題の状況						
施策	工芸館開館に向けたプレイベント等の開催	評価	C			
	いしかわの優れた文化の創造と発信	評価	A			
課題	工芸館開館に向けたプレイベント等の開催					
	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	13,500	12,225	13,700	12,838	13,902	11,797

事業費							
(単位: 千円)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
事業費	予算					5,000	4,000
	決算					5,000	4,000
財源	予算					2,500	2,000
	決算					2,500	2,034
事業費累計		0		0		5,000	9,000

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	ガイドシステムの導入により、外国人がより気軽に本県が誇る伝統芸能である能楽と茶屋文化に触れることが可能となり、外国人鑑賞者の増加へとつながった。 観能の夕べの外国人鑑賞者数 R1:169人(H30:164人) うちタブレット利用者数 R1:123人 芸妓の舞の外国人鑑賞者数 R1:226人(H30:185人) うちガイドシステム利用者数 R1:187人 ※新型コロナウイルスの影響により、観能の夕べは冬1回、芸妓の舞は7回中止
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	統合	能楽及び茶屋文化は本県が誇る伝統芸能であり、本県の大きな魅力の1つとなっている。 外国人がこれらの伝統芸能を気軽に体験できる環境を整備することが、本県への外国人観光客の誘客にも寄与するため、外国人の鑑賞をサポートする本事業を継続して実施する。 R2からは、「加賀百万石文化めぐり」事業に統合して実施することで、外国人観光客向けの環境整備を一体的に行う。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	「いしかわ文化の日」「いしかわ文化推進期間」 普及啓発事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
	根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	主事 濱野 夏実	者 電話番号

**事業の背景・目的**  
 県民の文化意識の向上を図るため、「いしかわ文化の日」及び「いしかわ文化推進期間」の期間中、各種イベントの集中実施及び各施設・市町と連携した一体的なPRにより、より多くの県民が文化に親しむことのできる機会を創出し、文化施設のさらなる利用促進と県民の文化意識の向上を図る。

**事業内容**

(1) 「いしかわ文化の日」普及事業 (10月20日(日))

ア いしかわ文化の日記念イベントの開催

- ・ 会 場： 石川県地場産業振興センター(金沢市)(約500人)
- ・ 内 容： ①オープニング公演(地元ゆかりのプロの文化人による公演)  
藤間 寿氏(日本舞踊家、金沢市出身)  
コール・とがし(女声コーラス、金沢市拠点)
- ②知事挨拶
- ③本谷 有希子トークショー

<文化体験コーナー>  
 加賀友禅型染め体験、和菓子制作体験、書道体験など

イ 文化施設の県民入場無料の普及・啓発

- ・ 県内文化施設の当日県民入場無料化
- ・ 啓発チラシの作成、配布

(2) 「いしかわ文化推進期間」普及事業 (10月20日(日)～11月3日(日・祝))

ア 金沢・加賀・能登の周遊を促すスタンプラリーの実施

- ・ 県内文化施設来場者を対象としたスタンプラリーを実施
- ・ 複数の文化施設来場者に景品を交付

イ 協賛事業イベントパンフレットの作成(180事業)

- ・ 期間中に実施される県内の文化イベント情報を掲載したパンフレットの作成、配布
- ・ 文化施設、観光施設、商業施設等に設置

施策・課題の状況							
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信					評価	A
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信						
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
	目標値	現状値					
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	913,000	892,998	907,035	862,986	976,144	823,786	
事業費							
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
事業費	予算	5,000	6,500	6,500	6,500	5,200	
	決算	5,000	6,500	6,500	6,500	5,200	
一般	予算	5,000	6,500	6,500	6,500	5,200	
	決算	5,000	6,500	6,500	6,500	5,200	
財源	決算	5,000	11,500	18,000	24,500	29,700	
事業費累計		5,000	11,500	18,000	24,500	29,700	
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「いしかわ文化の日」では、県民が文化に親しむことができるよう、H26年度より県内文化施設で県民入場無料化を実施しており、R1年度は前年度比1.4倍となる60,700人が入館し、県民が広く文化に親しむ機会を創出した。 さらに、「いしかわ文化推進期間」中には180の協賛事業が取り込まれ、これらの事業をイベントガイドやホームページなどで一体的にPRし、多くの県民の参加を促した。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	「いしかわ文化の日」記念イベントについては、引き続き一流の文化人を招いた講演や地元で活躍する文化団体等の公演を開催するなど、県民の文化意識の向上に資するよう趣向を凝らしたイベントを開催する。 また、「いしかわ文化推進期間」においては、イベントパンフレットの内容についても充実を図り、より多くの県民の文化活動への参加を促すことで、いしかわ県内全域の文化活動を一層盛り上げていけるよう取り組んでいく。					

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業費	<b>事業開始年度</b> H17	<b>事業終了予定年度</b>
	<b>根拠法令・計画等</b> いしかわ文化振興条例	

<b>作組</b>	文化振興課
<b>成職・氏名</b>	専門員 藤井達也
<b>者電話番号</b>	076 - 225 - 1371 内線 3851

**事業の背景・目的**  
北陸新幹線の金沢開業と文化振興条例の制定を大きな契機ととらえ、首都圏をはじめ県内外の方々に藩政期より培われた本県が誇る質の高い伝統文化に触れてもらうため、四季折々に兼六園周辺文化の森で各施設の特長を活かしたイベントを開催する。

- 事業の概要**
- 1 兼六園周辺文化の森「四季の文化回廊」事業の実施
    - (1) ミュージアムウィークの開催  
交付先: 兼六園周辺文化の森活性化推進実行委員会
    - ①春 ～グルグルめぐる文化の森～  
時期: 4月27日(土)～5月6日(月・振休)(GW期間中)  
内容: ①新文化の森ウォークラリー、特別講演会など
    - ②夏 ～キラキラ光る文化の森～  
時期: 8月2日(金)～18日(日)  
内容: デジタル掛け軸、子ども向けワークショップなど
    - ③秋 ～ワクワク楽しむ文化の森～  
時期: 10月20日(日)～11月4日(月・振休)  
※いしかわ文化推進期間: 10月20日(日)～11月4日(月・振休)  
内容: スペシャル朗読会、特別講演会など
    - ④冬 ～ドキドキ味わう文化の森～  
時期: 令和2年2月1日(土)～2月9日(日)  
内容: ①新ジェラートマエストロによるパフォーマンス会、食と工芸をテーマにした食談義など

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	いしかわの優れた文化の創造と発信				<b>評価</b>	A
<b>課題</b>	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	<b>指標</b>	兼六園周辺文化施設入館者数			<b>単位</b>	人
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	913,000	892,998	907,035	862,986	976,144	823,786

事業費						
	<b>(単位: 千円)</b>	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
<b>事業費</b>	予算	18,000	19,000	19,000	19,000	21,000
	決算	25,644	19,000	19,000	18,858	20,878
<b>一般財源</b>	予算	0	19,000	9,500	9,500	10,500
	決算	0	9,500	9,500	9,429	10,439
<b>事業費累計</b>		104,576	123,576	142,576	161,434	182,312

評価		
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	ミュージアムウィークを四季折々に年4回開催し、新規事業を含め、多彩な文化イベントを展開した結果、期間中の対象施設の入館者数は、前年度を上回り、伝統工芸や美術をはじめ、本県の魅力ある文化に触れる機会の提供に貢献した。 【期間中(春～冬)の文化施設の入館者数】 R1: 361,857人、H30: 354,556人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	統合	R2年は国立工芸館の開館や鼠多門・橋の完成等により、これまで以上に、外国人をはじめとした観光客の増加が見込まれる中、本県文化の魅力を一体的に国内外へ発信するため、R2年度からは、「加賀百万石文化めぐり」事業に統合し、期間を区切って開催していたミュージアムウィークを拡充し、年間通じて切れ目なく展開する。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール推進事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令	いしかわ文化振興条例		
		計画等			

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主任主事 浅井 圭一郎			
	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847			

**事業の背景・目的**  
 子どもたちが本県の文化に深く親しむことは、本県文化の振興を図っていく上での礎ともなる重要な施策であるため、兼六園周辺文化の森を中心に、県内の様々な文化施設において、小・中学生を対象とした多彩な文化体験メニューを提供し、本県の質の高い「本物の文化」の奥深い魅力や真髄を五感を通じて体感してもらう。

**事業の概要**

(1) 体験内容  
 美術館、歴史博物館の文化施設のほか、図書館や生涯学習センターにおいて、伝統芸能・工芸や音楽、美術など計200以上の体験メニューを提供

①伝統芸能  
 ・能楽(能、仕舞、狂言)  
 ・その他伝統芸能(三味線、箏、太鼓、日本舞踊、人形浄瑠璃)

②伝統工芸  
 ・焼き物・器づくり(ろくろ回し、絵付け)  
 ・塗り物(蒔絵、金箔)  
 ・木工芸(組子細工、竹細工)

③音楽  
 ・洋楽器演奏(ヴァイオリン、フルート、トランペット)

④美術  
 ・芸術(絵画、彫刻、壁画)

⑤その他  
 ・歴史・文学(江戸時代の帳面づくり、朗読会)  
 ・生活文化(茶道、華道、着付け)  
 ・文化財・博物館学(子ども一日学芸員、修復体験)  
 ・郷土の文化(和菓子作り、朗読会)

(2) いしかわ子ども文化体験チャレンジスクールの実施  
 上記の体験内容を対象メニューとしたスタンプラリーを実施し、参加実績に応じて称号と記念品を付与

**これまでの見直し状況**  
 平成27年度に行った「いしかわ子ども伝統芸能チャレンジ推進事業」で実施した伝統芸能体験に加え、音楽や伝統工芸などの100を超える多彩な文化体験を提供することとした。

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信				評価	A
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	913,000	892,998	907,035	862,986	976,144	823,786
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	112,000	109,831	108,895	139,645	111,603	121012
事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	5,000	12,000	12,000	12,000	11,500
	決算	1,810	11,281	11,732	11,655	10,782
一般	予算	0	6,000	6,000	6,000	5,750
財源	決算	0	5,641	5,866	5,828	5,391
事業費累計		1,810	13,091	24,823	36,478	47,260
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	兼六園周辺文化の森を中心とした文化施設において、子どもを対象とした多彩な文化体験メニューを提供し、伝統芸能をはじめとする幅広い分野に興味を持ち始めるきっかけをすることにより、文化の裾野の拡大に寄与した。  R1参加者数 延べ18,616人(H30比△3,899人) R1メニュー数 227メニュー(H30比+15メニュー)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	引き続き、子どもたちにより人気の高い文化体験メニューの充実を図ることで、各文化施設の入館者数の増加、ひいては、県民が文化に親しむ機会の充実を図る。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 「いしかわジュニアアートステージ」開催費	<b>事業開始年度</b> H30	<b>事業終了予定年度</b>	<b>作 組 織</b> 文化振興課	<b>成 職・氏名</b> 主事 濱野 夏実
	<b>根拠法令・計画等</b> いしかわ文化振興条例			<b>者 電話番号</b> 076 - 225 - 1371 内線 3845

**事業の背景・目的**  
 本県文化の次代の担い手を育成するため、トップレベルの文化活動を実践している児童・生徒による「和」と「洋」の創意あふれるステージ発表や作品展示などを通して、多くの児童・生徒が刺激を受け合う場を創出し、今後の文化活動の更なる意欲の向上を図る。

**事業内容**

(1) 会 場 県立音楽堂 邦楽ホール、交流ホール

(2) 出演・出展内容

① ステージ公演 (邦楽ホール)

- ・分野 「和」 箏曲、民謡、三味線、和太鼓など  
 「洋」 洋舞 (ダンス、バレエ)、ピアノ、合唱、吹奏楽、バイオリンなど
- ・公演 10～15分/団体 (7～8団体程度)
- ・講評等 著名な舞台関係者による講評
- ・交流 ⑨ 出演者同士の「和」と「洋」のコラボステージ (1～2組)

② 作品展覧会 (交流ホール)

- ・作品展示 全国高等学校総合文化祭出品作品等  
 → イベント後、県庁19階展望ロビーにて作品 (一部) を展示
- ・講 評 各分野の専門家らによる講評
- ・交 流 高校生による生け花や書道のステージパフォーマンスや、  
 生け花、書道、似顔絵の体験  
 → 午前・午後での実施に拡大 (H30: 午前のみ)

(3) 出演基準  
 全国的なコンクールや大会で入賞した団体・個人 (対象: 小学生～高校生)  
 (各部門の協会・連盟等からの推薦を要する)

(4) ⑨ 幼児向け文化体験 (アートステージプレイイベントとして実施)

- ・会 場: 音楽堂の練習室・控室等
- ・体験分野: ピアノ、和太鼓、ダンス、書道、絵画など

※ 「アートステージ」本番の鑑賞にもつなげ、文化活動をはじめのきっかけづくりとする。

(5) 開催時期 令和元年12月

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信				評価	A
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
指標	兼六園周辺文化施設入館者数				単位	人
目標値	現状値					
令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
913,000	892,998	907,035	862,986	976,144	823,786	
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数				単位	人
目標値	現状値					
令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
112,000	109,831	108,895	139,645	111,603	121,012	
事業費						
(単位: 千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
事業費 予算				7,000	7,500	
事業費 決算				7,000	7,500	
一般 予算				7,000	7,500	
財源 決算				7,000	7,500	
事業費累計		0	0	7,000	14,500	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	ステージ公演では、新たに実施した「和と洋のコラボステージ」が、出演者・来場者ともに好評であり、来場者アンケートでは満足度が9割を超えた。 また、新たに実施した「幼児向け文化体験」では、来場者からは「楽しくいろいろな体験ができてよかった」、出演者からは「小さい子どもたちに教えられたことが良い経験となった」という声が聞かれ、来場者アンケートでは満足度が8割を超えた。 【来場者数】 ステージ公演: 約700人、作品展示会: 約700人、 幼児向け文化体験: 約100人				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	文化活動に親む子ども達を県内全域において増やし、本県文化の裾野の拡大を図るため、新たに能登でプレイイベントを実施する。 また、参加者には、「いしかわジュニアアートステージ」本番を鑑賞してもらい、文化活動への意欲の向上につなげる。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 美術館展覧会費(企画展示費)	事業開始年度 S58	事業終了予定年度	作 組 織 県立美術館
	根拠法令 ・計画等 いしかわ文化振興条例		成 職・氏名 主幹 一木 勉 者 電話番号 076 - 231 - 7580 内線 6510

### 1 事業の目的

美術に対する理解を深めるため、特定のテーマに基づく作品による企画展を開催し、優れた美術鑑賞の場を提供する。

また、こうした場を提供しつつ、兼六園周辺文化の森に立地する特長を生かし、憩いの空間として県内外のお客様に広く親しまれる美術館となることを事業の目的とする。

### 2 事業の概要

(1) 脇田和と猪熊弦一郎 ～モダンの展開～

① 会 期 : 令和元年4月20日～6月9日 (会期 51日間)

② 内 容 : 子供や鳥を主題とし、洗練された抒情性を示す作品で知られる脇田和。平成27年に大量の作品寄贈を受けたその主要作と、同時代に活躍し、ともに新制作派協会を創設した猪熊弦一郎の作品を展示する展覧会。脇田和氏が石川ゆかりの作家であることを紹介しつつ、氏と交流の深い画家で、モダン絵画の旗手である猪熊弦一郎の作品を交え、脇田作品と比較しつつ戦後美術界の様相をも示すことも趣旨とする。

(2) 石川の美術 ―美術館創設60年のあゆみ―

① 会 期 : 令和元年8月31日～10月7日 (会期 38日間)

② 内 容 : 昭和34年の石川県美術館開設から60年を機に、石川美術の集大成を示す展覧会として、過去に展示・収集してきた名品の数々を紹介することを目的に開催する展覧会。  
石川県立美術館に收藏される優品と、これまで開催した展覧会を飾った名品の数々を通して、石川美術の歴史と県立美術館のあゆみをたどることができる展示内容とする。

(3) いしかわのおもてなし ―屏風絵などの調度を中心に―

① 会 期 : 令和2年1月4日～2月11日 (会期 39日間)

② 内 容 : 室内の調度品として作られ、風景画や名所絵などを描いた屏風は、日本の絵画芸術に特徴的なものである。  
本展では、加賀藩の時代から今日に伝わる優れた屏風作品を展示し、そこから日本の美を見出しつつその魅力を紹介する内容とする。  
その他、展示と併せ、ギャラリートークやワークショップも開催し、屏風絵に馴染みの薄いお客様にも、これらに親しんで知識を深めていただくことも展覧会開催目的の一つとする。

### 施策・課題の状況

施策	いしかわの優れた文化の創造と発信	評価	A
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信		
	指標	美術館入館者数	単位
	目標値	現状値	
	令和4年度	平成27年度	平成28年度
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	472,500	448,456	467,339
		433,334	529,858
			403,763

### 事業費

(単位:千円)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	52,757	20,763	20,763	20,763	20,763
	決算	52,712	19,921	19,749	20,251	14,475
一般	予算	23,178	5,063	8,847	8,847	8,847
財源	決算	22,923	13,106	9,286	7,868	8,349
事業費累計		532,205	552,126	571,875	592,126	606,601

### 評価

項目	左記の評価理由
事業の有効性  <small>(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)</small>	B  令和元年度は、隔年開催の日展金沢展が開催されない年であったことや新型コロナウイルスの流行の影響等により、入館者数が前年度より減となったものの、来館者アンケートでは、「ゆっくり鑑賞できてよかった」という意見もあるなど、90%以上の方から満足したという評価を得ることができた。
今後の方向性  <small>(県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)</small>	継続  来館者アンケートなどの要望にきめ細やかに対応するとともに、美術館に何度も足を運んでもらえるような魅力ある展覧会を企画立案し、効果的なPR活動を実施することにより、入館者数の増加、来館者アンケートの満足度のより一層の向上を目指す。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	文化財保存修復工房魅力発信事業費	事業開始年度	H28	事業終了予定年度		作組織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成職・氏名	主事 中村 文佳
						者電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3838

**事業の背景・目的**  
 これまで積み重ねてきた修復の実績や石川の高い修復技術を、県内・全国に向けて積極的に発信し、石川県独自の施設として更なる発展を目指す。

**事業の概要**  
 文化財保存修復工房、および隣接する県立美術館広阪別館(旧陸軍第九師団長官舎、H28国登録有形文化財)において、各種事業を実施。

① 体験イベント等の充実 ※四季折々に開催するミュージアムウィーク期間中に実施  
 ・特別実演  
   修復技術者が作品の解説や修復内容を実演も交えて紹介  
 ・子ども修復体験(江戸時代の帳面づくり)  
 ・大学生向けワークショップ(寒糊炊き)  
 ・「寒糊炊き」の実演・展示解説

② 修復工房セミナーの開催  
 外部講師(第一線で活躍する専門家)を招いてセミナーを実施。文化財の適切な管理・修復方法について、県内の文化財関係者に向けた普及啓発を行う。

③ 修復工房活動報告冊子の作成  
 リニューアルオープンからの工房における具体の修復実績等をまとめた冊子を作成し、博物館・美術館や寺社等、文化財関係者に配布する。

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信				評価	A
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	美術館入館者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	472,500	448,456	467,339	433,334	529,858	403,763
事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算		2,000	4,000	1,400	1,400
	決算		1,906	4,000	1,372	1,115
一般	予算		2,000	2,000	700	700
財源	決算		952	2,000	706	557
事業費累計			1,906	5,906	7,278	8,393
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	解説付きの修復実演やワークショップ等の体験イベント、外部の専門家によるセミナーを通して、本県の高い文化財修復技術や修復に関する専門的な情報を発信した。 また、工房の利用促進を図るため、リニューアルオープンしたH28年度の修復実績等をまとめた冊子を作成し、文化財関係者へ配布した。 <修復工房入館者数> R1:37,099人(前年度から3,734人増) <修復実績> H30:37件(前年度:40件)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	体験イベントやセミナーの開催、作成済の活動報告冊子の配布を通して引き続き情報発信に努めるとともに、新たにH29年度からR1年度までの修復実績等をまとめた冊子を作成・配布することで、更なる魅力発信や利用促進に取り組む。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	歴史博物館特別展示費	事業開始年度	S 62	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	歴史博物館		
成	職	氏名	総務課長 粟 知之		
者	電	話	番	号	076 - 262 - 3236 内線 6511

**事業の背景・目的**  
 独自のテーマにスポットをあて、考古・歴史・民俗等の貴重な資料を基に特別企画による展示を行い、県民等が歴史に親しみ、さらに認識を深める一助となることを目的としている。

**(1) 春季特別展**

テーマ:「いしかわの神々ー信仰と美の世界ー」  
 時 期:平成31年4月27日(土)～6月2日(日) 37日間  
 主 旨:加賀や能登では、古来より白山・気多・石動といった名高い大神をはじめとして、さまざまな神々と寄り添う暮らしがあり、その信仰は明治の神仏分離まで仏教と互いに影響し合い、融合しながら育まれてきた。本展では、これまで人目に触れることのなかった神像彫刻や本地仏、垂迹曼荼羅、神宝、奉納品といった神々にまつわる秘宝を展観し、その価値と魅力をわかりやすく伝えるとともに、神と仏を等しく崇めてきた信仰の歴史と美の世界を見つめる。

**(2) 夏季特別展**

テーマ:「画業50年”突破”記念 永井GO展」  
 時 期:令和元年7月20日(土)～8月25日(日) 37日間  
 主 旨:輪島市出身で本県を代表する漫画家「永井豪」氏が、2017年に画業50周年を迎えたことから、これまでの偉業を直筆原稿やカラー原画等で紹介するとともに、出身地の伝統工芸「輪島塗」とコラボレーションしたフィギュアや肖像画等を展示し、輪島塗の魅力を併せて発信する。

**(3) 秋季特別展**

テーマ:「加賀前田家と北野天満宮」  
 時 期:令和元年9月14日(土)～11月4日(祝・月) 51日間  
 主 旨:加賀前田家は、天神(菅原道真)を代々崇敬してきた。とりわけ、京都北野社(現・北野天満宮)とのつながりは深く、三代利常は隠居した小松の地に京都北野社の四分の一規格の社(現小松天満宮)を造営し、北野社上乘坊から社僧能順を招いた。本展覧会では、前田家から京都北野社へ奉納された品々を含む天神関係資料を展示し、前田家が天神と深く関わってきた歴史を深く掘り下げる。

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信	評価	A			
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
指標	歴史博物館入館者数	単位	人			
目標値	現状値					
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	165,000	185,206	164,597	155,586	174,753	151,807

事業費						
(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
事業費	予算	39,307	27,805	35,365	31,352	37,136
	決算	39,113	27,165	35,956	28,424	36,200
一般	予算	13,943	9,473	19,081	12,506	12,115
	決算	19,220	6,886	19,903	21,411	21,387
財源	事業費累計	231,393	258,558	294,514	322,938	359,138

評価	
項目	左記の評価の理由
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> 特別展(春、夏、秋)の開催に合わせ、講演会やワークショップなどを実施することで多くの入館者を得ることができた。 また、入館者を対象としたアンケートでも97%から満足したという評価を得ることができた。 <特別展入館者数> R1:28,704人(前年度比5,347人増)
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">継続</p> 今後も石川県の歴史や文化の魅力を様々な視点から発信するとともに、多くの来館者から満足が得られるよう事業実施の工夫に努めていく。 ・県民の興味を引くようなテーマの設定 ・SNSや路線バス内液晶ポスターの活用による広報 ・来館者アンケートによる利用者ニーズの把握と展示特別展への反映

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 石川四高記念文化交流館事業費	<b>事業開始年度</b> H20	<b>事業終了予定年度</b>	<b>作 組 織</b> 石川四高記念文化交流館
	<b>根拠法令・計画等</b> いしかわ文化振興条例		<b>成 職・氏名</b> 専門員 山岸 吉輝
			<b>者 電話番号</b> 076 - 262 - 5464

**事業の背景・目的**  
 石川四高記念文化交流館は、四高の歴史と伝統を伝える展示に加え、旧四高の教室を多目的に利用できる「石川四高記念館」と石川県ゆかりの文学者の資料を展示する「石川近代文学館」によって構成され、兼六園周辺文化の森の新しい「学びとふれあいの複合文化スペース」として平成20年4月に開館した。これらの施設を多くの方々に利用していただくため、企画展示やイベント等を実施する。

- 事業の概要**
- 1 石川四高記念館
    - ・施設の概要
      - 四高と四高生を育んだ風土と時代を知るための展示
      - 旧四高教室を学習や発表の場として利用できる多目的利用室(有料)の設置
    - ・主な事業
      - 常設展示(4室)
      - 企画展の実施
        - 「加賀藩校から四高へ」
        - 前撮り写真展
      - 三文豪館とのスタンプラリー
      - 講座の開催(フレッシュ新三々塾 年4回) など
  - 2 石川近代文学館
    - ・施設の概要
      - 石川県ゆかりの文学者の著書・原稿・愛蔵品等を一堂に集めた総合文学館(公益財団法人石川近代文学館へ事業を委託)
    - ・主な事業
      - 常設展示(8室)
      - 企画展の実施
        - 「平成をうつすー未来にうけつぐ言葉と本と物語ー」 (4/20～6/23)  
 時代の大きな節目であることから、「平成」を彩った「言葉」(今年の漢字、流行語)、「本」(ベストセラー)、「物語」(時事に対応する物語)等から平成を振り返る。
        - 「恋するいしかわー恋の詩歌と物語ー」 (7/20～11/24)  
 石川ゆかりの作家の手による恋愛を題材にした詩や短歌や俳句、石川が舞台の恋愛小説などを紹介し、恋する心を石川の文学を通じて味わっていただく。
        - 「中野重治の文学批評ー先人・友人たちとの交わりー」 (1/11～3/22)  
 2019年に没後40年、四高入学100年となる中野重治の自筆原稿の中から、石川・福井・四高所縁の友人や尊敬する先輩作家達にふれた文章を選び展示し、彼らとの交流を紹介する。
- ワークショップ、イベント(朗読会、文学講座、研究会など)の開催

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	いしかわの優れた文化の創造と発信	<b>評価</b>	A			
<b>課題</b>	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	<b>指標</b>	石川四高記念文化交流館入館者数	<b>単位</b>	人		
	<b>目標値</b>	現状値				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	200,000	184,858	199,458	201,908	202,803	201,861

事業費						
(単位:千円)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
<b>事業費</b>	<b>予算</b>	16,137	16,137	16,137	17,137	16,019
	<b>決算</b>	12,633	12,778	12,296	13,649	12,999
<b>一般</b>	<b>予算</b>	12,517	12,517	12,517	13,517	12,519
	<b>決算</b>	8,440	10,099	9,489	11,455	10,731
<b>財源</b>						
<b>事業費累計</b>		104,005	116,783	129,079	142,728	155,727

評価	
<b>項目</b>	<b>評価</b>
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 全体の利用者は新型コロナウイルスの影響で2、3月に大幅に減ったために前年度をわずかに下回ったものの、入館者数は3年連続で目標を上回り、金沢中心部における賑わいの創出に貢献した。
	今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度	
	根拠法令	いしかわ文化振興条例		
	・計画等			

作成者	組織	文化振興課			
	職・氏名	主任主事 三浦 奈緒美			
	電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853			

**事業の背景・目的**

定期的に能楽を上演、鑑賞及び体験する機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。

**事業の概要**

内容

- 1 能楽鑑賞
  - 「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番
    - ① 「夏の観能の夕べ」  
全9回(特別公演1回、一般公演8回)
    - ② 「冬の観能の夕べ」  
全5回 令和2年1月～3月の期間中 (土曜日)
  - ※ H30年度冬の公演から、外国人鑑賞者をサポートするタブレット端末を導入  
(外国人向け伝統芸能鑑賞ガイドシステム導入事業)
- 2 能楽体験
  - 「観能の夕べ」上演前に演目に関する体験を実施  
定員:20名/回(要事前予約、申込順)

会場 石川県立能楽堂

主催 いしかわの伝統文化活性化実行委員会

対象 一般

入場料

- ① 「夏の観能の夕べ」
  - 特別公演 3,000円/回
  - 一般公演 1,000円/回
- ② 「冬の観能の夕べ」
  - 前売り 1,000円/回
  - 当日 1,200円/回
- ③ 能楽体験  
無料(ただし当日の体験者に限る。)

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信	評価	A			
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	能楽堂入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	54,000	50,515	54,532	53,522	49,363	48,445

※H27～いしかわ県民文化振興基金事業					
事業費					
(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費 予算	3,500	5,000	6,000	6,000	6,000
事業費 決算	6,200	3,500	8,050	5,325	3,316
一般 予算	0	0	0	0	0
財源 決算	0	0	0	0	0
事業費累計	76,325	79,825	87,875	93,200	96,516

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「観能の夕べ」は、本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生による優れた演能を低廉な価格により定期的に鑑賞する機会を県民に提供しているほか、公演回数を確保することにより、能楽師の技術向上にも貢献している。 また、能楽体験については、参加者から、「演目の謡や仕舞等の体験を通じて、能楽への理解が深まった」との声もあり、愛好者の裾野拡大につながっている。 <入場者数> ※新型コロナウイルスの影響で冬1回中止 R1: 3,596人(前年度比176人増) <アンケート結果(能楽体験)> 「満足した」夏公演:100%、冬公演:100%
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	今後も「観能の夕べ」及び能楽体験を継続することにより、さらなる能楽愛好者の裾野拡大を図っていく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	文化活動支援事業費・若手芸術家活動支援事業費	事業開始年度	H27	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主任主事 廣澤 剛志		
者	電話	番号	076 - 225 - 1371	内線	3844

**事業の背景・目的**  
 県内の文化団体が新たに実施する文化活動に対して助成金を交付することにより、文化の担い手である県民の自主的・主体的な文化活動を支援し、本県の優れた文化の更なる発展と裾野の拡大を図る。

**事業の概要**

	<b>文化活動支援事業</b>	
事業名	① 文化創造普及事業	② 地域文化活性化事業
対象事業	県全域を対象として文化活動を行う文化団体が実施する文化活動事業 (新規性のあるものに限る)	市町において文化活動を行う文化団体が実施する文化活動事業 (新規性のあるものに限る)
助成対象期間	最大3年間(初年度に全体事業を認定)	
	初年度に助成金を一括交付	助成金は毎年度交付
助成率	最大で全体事業費の1/2 <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は2/3                  ※助成額は、次の①②のいずれか低い額                  ① 助成対象経費 × 1/2 (又は2/3)                  ② 事業費 - 入場料収入等</small>	
	団体自己負担の1/2以上を地元市町が補助	
助成限度額	最大 300万円(3年間) <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は400万円</small>	最大 150万円(3年間) <small>※子ども対象事業、指導者育成事業は200万円</small>

	<b>若手芸術家活動支援事業</b>	
事業名	県全域を対象として活動を行う文化団体に所属する概ね40歳未満の若手芸術家(個人又はグループ)が行う個展やコンサートなど <small>※所属する文化団体から推薦のある者に限る</small>	
対象事業		
助成対象期間	1年間	
助成率	最大で全体事業費の2/3 <small>※助成額は、次の①②のいずれか低い額                  ① 助成対象経費 × 2/3                  ② 事業費 - 入場料収入等</small>	
助成限度額	最大20万円	

**これまでの見直し状況**  
 平成30年度募集より、「子ども対象事業」及び「指導者育成事業」の支援を拡充するとともに、若手芸術家への支援制度を新設

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信				評価	A
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	13,500	12,225	13,700	12,838	13,902	11,797

※いしかわ県民文化振興基金事業					
事業費					
(単位:千円)					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
一般	61,531	63,739	51,403	71,024	70,147
財源			0	0	0
事業費累計	61,531	125,270	176,673	247,697	317,844

評価	
項目	評価
事業の有効性	左記の評価の理由
(費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 文化活動・若手芸術家活動の広範な分野から創意溢れる様々な取組の応募があり、51件(前年度から△4件)を事業認定・助成した。 助成事業には、コーラスやコントラバス(音楽)、ハンギングバスケット(華道)など、昨年までの認定にはない新たな分野の取組が含まれ、多様な分野での活用が広がっており、文化団体の自主的・主体的な活動を促進し、本県文化の更なる発展と裾野の拡大に寄与している。
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 引き続き、文化団体や個人の自主的・主体的な活動の支援を行い、本県文化の更なる発展と裾野拡大を図る。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 子どものための音楽文化推進事業費	<b>事業開始年度</b> H28	<b>事業終了予定年度</b>
	<b>根拠法令・計画等</b> いしかわ文化振興条例	

<b>作</b>	<b>組</b>	<b>織</b>	文化振興課
<b>成</b>	<b>職・氏名</b>	主任主事 吉原 美里	
<b>者</b>	<b>電話番号</b>	076 - 225 - 1372 内線 3839	

**事業の背景・目的**  
「いしかわ文化振興条例」の基本理念に基づき、本県の文化の裾野の拡大とさらなる高みを目指すため、洋楽(クラシック音楽)・邦楽を嗜む新たな県民の掘り起こしを図る。

- 事業の概要**
- 1 洋楽・邦楽リーフレットの作成・配布
    - (1) 内 容
 

普段、邦楽等に触れる機会の少ない子ども達を対象とした洋楽・邦楽の基礎知識等をまとめたリーフレットを作成し、配布する

      - ①洋楽
        - ・クラシック音楽とは？(歴史、楽器、編成等の基礎知識)
        - ・代表的な作曲家とその代表曲
        - ・コンサートに行くには？(服装、マナー等)
        - ・音楽堂、OEK紹介 など
      - ②邦楽
        - ・邦楽の歴史、楽器について
        - ・音楽堂邦楽ホール紹介 など
    - (3) 作成部数
 

各20,000部
    - (4) 配布先
 

県内小学校(6年生)、各市町、各種イベント、音楽教室等
  - 2 はじめてのコンサート開催(音楽文化振興事業団への補助金)
    - (1) 目 的
 

リーフレット等で興味を持った人に、実際にコンサートに足を運んでもらう
    - (2) 内 容
 

既存の音楽堂主催のコンサートのうち1公演を、初心者向けのコンサートとする
    - (3) 特 徴
      - ①リーフレット等を活用した丁寧なMC解説(楽器紹介、鑑賞マナーなど)
      - ②楽器体験コーナーの設置
    - (4) 開催回数
 

2回
    - (5) 出 演
 

MC、OEK、石川県ジュニアオーケストラ、いしかわ子ども邦楽アンサンブルほか

施策・課題の状況						
<b>施策課題</b>	いしかわの優れた文化の創造と発信	<b>評価</b>	A			
	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	<b>指標</b>	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	<b>単位</b>	人		
	<b>目標値</b>	現状値				
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	13,500	12,225	13,700	12,838	13,902	11,797
	<b>指標</b>	音楽堂入場者数	<b>単位</b>	人		
	<b>目標値</b>	現状値				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	258,000	262,241	246,883	321,184	255,959	260,592

※いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
(単位:千円)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
<b>事業費</b>	<b>予算</b>		3,000	2,500	2,300	2,300
	<b>決算</b>		4,067	2,495	2,497	1,709
<b>一般財源</b>	<b>予算</b>		0	0	0	0
	<b>決算</b>		0	0	0	0
<b>事業費累計</b>			4,067	6,562	9,059	10,768

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
<b>事業の有効性</b>  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	普段邦楽やクラシック音楽に触れる機会の少ない子ども達を中心に、リーフレットを作成・配布することにより、邦楽やクラシック音楽の基礎知識等に触れる機会を創出し、音楽文化の普及啓発を図った。なお、はじめてのコンサートについては、新型コロナウイルスの影響で開催中止となった。  <はじめてのコンサート入場者数> R1: - H30: 923人(うち子どもの割合 29.4%(271人))
<b>今後の方向性</b>  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	引き続き、リーフレットを活用した啓発やコンサート内容の充実により子どもたちが音楽に触れる機会を提供し、音楽を嗜む県民の裾野拡大に取り組んでいく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	子ども芸術鑑賞推進事業費	事業開始年度	S57	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 安村 俊亮		
者	電	話	番	号	076 - 225 - 1371 内線 3854

**事業の背景・目的**

県内の小中学生を対象に優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し、芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に資する。

**事業の概要**

県内市町で下記の事業を実施する。

- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室  
県内で4公演を実施 (公財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託  
(輪島市、かほく市、白山市、内灘町)
- 2 スクールシアター(児童演劇公演)  
県内で11公演を実施 (公社)日本児童青少年演劇協会に委託  
(珠洲市、七尾市、羽咋市、かほく市、野々市市、白山市、能登町、穴水町、志賀町、内灘町、川北町)

**これまでの見直し状況**

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信				評価	A
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	13,500	12,225	13,700	12,838	13,902	11,797
※H27～いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	4,231	4,231	4,231	4,231	4,012
	決算	4,187	4,209	4,231	4,231	2,812
一般	予算	0	0	0	0	0
財源	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		297,529	301,738	305,969	310,200	313,012
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	県内の子どもたちにオーケストラや演劇など、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、豊かな感性と創造性をはぐむことに寄与している。 鑑賞教室等を体験した学校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるとの意見が多い。 R1鑑賞者数： 6,115人(前年度比2,539人減)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本物の芸術に触れる機会の少ない児童・生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。 また、開催希望数が増加するよう、市町担当者に当該事業の説明会やPRを行うなど、引き続き市町に対し積極的な働きかけを行う。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	県民移動能実施事業費	事業開始年度	H2	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	主任主事 三浦 奈緒美
						者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853

**事業の背景・目的**  
鑑賞機会が少ない地域に能楽師が出向き、児童・生徒等に生の舞台芸術にふれる機会を提供することにより、能楽愛好者の増加を図る。

**事業の概要**  
県内市町にて2公演(1公演/1市町)下記事業を実施する。

**内容**  
仕舞、舞囃子、狂言1番、能1番  
開催市町の児童・生徒を対象としたワークショップ

**公演日、会場**  
① 10月 2日(水) 珠洲市ラポルト珠洲  
② 11月12日(火) 野々市市立菅原小学校

施策・課題の状況							
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信					評価	A
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人	
	目標値	現状値					
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	13,500	12,225	13,700	12,838	13,902	11,797	

※～H26石川県文化振興基金事業  
※H27～いしかわ県民文化振興基金事業

事業費							
		(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算		3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	決算		3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
一般	予算		0	0	0	0	0
	決算		0	0	0	0	0
事業費累計			78,000	81,000	84,000	87,000	90,000

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「県民移動能」は、能楽の鑑賞機会が少ない地域に能楽師が出向き、児童、生徒等に生の舞台芸術にふれる機会や、能楽の体験の機会を提供しており、児童・生徒等が本県の豊かな古典芸能の理解を深めることに貢献している。  県民移動能鑑賞者数 R1:568人(H30:259人) 公演回数 R1:2回(H30:2回) ※鑑賞者数は生徒数や会場の大きさにより変動する。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	本県を代表する古典芸能である能楽に触れる機会の少ない児童・生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっている。 実施した市町からは、「芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながる。」との意見が多いことから、各市町の要望に応じて、内容の充実を図りながら、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供する。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	障害者のための文化芸術ふれあい推進事業費	事業開始年度	H9	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令	・いしかわ文化振興条例			成 職・氏名	主任主事 浦 育世
		・計画等	・石川県バリアフリー社会の推進に関する条例(H9.3)			者 電話番号	076 - 225 - 1371 内線 3853

**事業の背景・目的**  
 障害のある方でも楽しめる文化展の開催を通じて、より幅広い層の県民に石川の文化にふれる機会を提供することで、障害の有無に関わらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会を実現する。

**事業の概要**

- 1 事業名 ふれてみるいしかわの文化展
- 2 会 場 石川県立歴史博物館
- 3 期 間 令和元年11月17日(日)～23日(土) 7日間
- 4 対 象 主に障害者の方(視覚障害者や車椅子使用者等)、一般県民
- 5 内 容 ふれてみる彫刻展、音楽とおはなしの会・ミニコンサート、クイズコーナー、彫刻ワークショップ 等

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信	評価	A			
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	13,500	12,225	13,700	12,838	13,902	11,797
※H27～いしかわ県民文化振興基金事業						
事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	400	1,000	1,000	1,000	1,000
	決算	400	1,000	1,000	1,000	1,000
一般	予算	400	0	0	0	0
	決算	400	0	0	0	0
事業費累計		26,364	27,364	28,364	29,364	30,364
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	文化展は、著名な彫刻家の作品をじかに触れる彫刻展や耳で楽しむ音楽劇など、障害のある方も含め、幅広い層の県民が文化芸術に親しむ機会となっており、文化事業のソフト面でのバリアフリー化の推進に資するものである。入場者は前年度から増加し、「触れることで質感や凸凹などが分かり、嬉しかった。」といった声があるなど、好評を得た。 入場者数 R1:2,086人 (H30:1,828人) うち障害者数 R1: 154人 (H30: 216人) 平均入場者数 R1: 298人/日 (H30:261人/日)				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	文化展は、障害のある方にとって、芸術文化に触れることができる貴重な場となっていることから、障害者団体の要望等を踏まえ、内容等の充実を図りながら、引き続き、開催していく。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭開催事業費	事業開始年度	H29	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作 成 者	組 織	文化振興課			
	職・氏名	主任主事 吉原 美里			
	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850			

**事業の背景・目的**

一流の演奏を鑑賞する機会を提供するとともに、地域に密着した、本県ならではの企画を盛り込んだ音楽祭を開催し、石川の音楽文化を発信するとともに、音楽を通じた地域の賑わい創出にも寄与することを目的とする。

**事業の概要**

- 1 開催時期：平成31年4月28日(日)～令和元年5月5日(日祝) 8日間
- 2 会 場：県立音楽堂、金沢市アートホール、JR金沢駅周辺  
しいのき迎賓館、赤羽ホール、加賀・能登地区の文化施設ほか
- 3 内 容：(1)世界的な作曲家などをテーマにした本格的なクラシックコンサート  
オーケストラ・アンサンブル金沢をはじめ、スウェーデンの一流オーケストラや世界的な指揮者などによる北歐・ロシアの作曲家の名曲演奏など  
  
(2)伝統芸能「邦楽」の新たな魅力の発見  
石川が誇る邦楽の単独公演、邦楽とクラシックのコラボレーションなど  
  
(3)県民が楽しみながら気軽に親しめるクラシックコンサート  
ショパンのバラード等の全曲演奏や、ダンスや映像などとのコラボレーション公演  
  
(4)石川が育んだ若手音楽家たちの共演  
いしかわミュージックアカデミー出身者や北陸新人登竜門コンサート出身者などの国内外で活躍する若手音楽家によるコンサートなど  
  
(5)地元演奏家や子どもたちとともに、みんなで楽しむ参加型プログラム  
地元吹奏楽団等の合同演奏、オーディション合格者によるピアノ公演、公募型合唱コンサート、市民オーケストラ等の合同演奏など
- 4 来場者数：113, 234人

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信	評価	A			
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭来場者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	100,000	122,024	109,609	111,840	112,960	113,234

※H28までは参考にラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数を記載

事業費						
(単位:千円)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	53,000	53,000	58,000	58,000	58,000
	決算	63,000	46,750	77,200	69,850	96,705
一般	予算	23,000	13,000	18,000	18,000	18,000
財源	決算	23,000	13,000	18,000	18,000	18,000
事業費累計		191,976	238,726	315,926	385,776	482,481

評価	
項目	評価
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A  10万人を超える来場者を数え、ゴールデンウィークにおける地域の音楽祭として、一流の演奏を鑑賞する機会を提供するとともに、本県独自に企画する創意工夫を凝らした公演が、県民を始めとした観客に高く評価され、音楽ファンの拡大や地域の賑わい創出に寄与した。
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続  一流の演奏を鑑賞する機会の提供に加え、地域に密着した石川の音楽文化を発信する場として、能楽や箏曲とクラシックのコラボレーションや、地域の文化施設を活用した公演など、石川らしい内容を盛り込む工夫をしながら、引き続き開催する。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわミュージックアカデミー開催事業費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度	
	根拠法令	いしかわ文化振興条例		
	計画等			

作成者	組織	文化振興課					
	職・氏名	主任主事 松本 隼樹					
	電話番号	076	-	225	-	1372	内線

**事業の背景・目的**  
 国内外の著名な講師による高いレベルのレッスンをを行い、世界に通用する若手音楽家の育成と石川の音楽文化の振興を図る。

**事業の概要**

- 1 事業名 2019いしかわミュージックアカデミー
- 2 期間 令和元年8月16日(金)～25日(日) 10日間
- 3 会場 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センター ほか
- 4 主催 いしかわミュージックアカデミー実行委員会 会長(石川県知事)谷本正憲
- 5 内容
  - (1) スクール部門
    - ① マスタークラス:プロを目指す若い音楽家を対象  
ヴァイオリン50人、チェロ9人、ピアノ18人
    - ② 基礎クラス:地元で音楽を学ぶ人達を対象  
ヴァイオリン5人、ピアノ13人
    - ③ 受講生ソロ発表会(マスタークラス受講生)
  - (2) コンサート部門
    - ① **新** IMAフェスティバルコンサート  
:IMA出身の将来有望な若手音楽家とOEK等との共演によるコンサート(県立音楽堂)
    - ② IMAライジングスターコンサート  
:IMA音楽賞受賞者及び世界的コンクール入賞者などによるコンサート(県立音楽堂)
    - ③ ミニコンサート  
:受講生が県内各地を訪問して行うコンサート(県内各地の特別支援学校、福祉施設等)
  - (3) フェローシップ制度  
優秀な受講生にIMA音楽賞を授与し、次年度のアカデミーに奨学生として招聘する。
  - (4) 県内若手音楽家育成事業
    - ① 基礎クラス優秀者に対する特別レッスンの開催(IMA開催後に実施)
    - ② IMA講師による無料体験レッスンの開催
    - ③ 受講生と音楽を学ぶ子どもたちとの交流イベントの開催

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信	評価	A			
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	いしかわミュージックアカデミー参加者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	1,800	1,719	1,557	1,537	1,381	1,881
事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	15,920	15,820	15,640	16,140	20,140
	決算	15,920	15,820	15,640	16,140	20,140
一般財源	予算	14,420	15,820	15,640	16,140	20,140
	決算	14,420	15,820	15,640	16,140	20,140
	事業費累計	447,755	463,575	479,215	495,355	515,495
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		B	世界的に著名な講師を迎え、レベルの高い個人レッスンを行っており、受講生の中からは、著名な国内外のコンクールに優勝するなどの実績も出ており、本県の音楽文化の発信に大きく寄与している。 また、レッスンの一般公開のほか、IMA出身の若手音楽家とOEKが共演するコンサートや受講生によるミニコンサートの開催など、県民が音楽に親しむ機会を幅広く提供している。 【受講者数】 R1:97人、H30:100人 【鑑賞者数】 R1:3,426人、H30:2,901人			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		継続	若手音楽家の育成事業である本事業では、近年、過去の受講生が講師となって石川に戻ったり、本県で開催されたコンサートに出演するなどの具体的な成果が表れている。 このような効果をさらに発揮するため、今後も長期的な視野に立ち、事業を継続していくとともに、県内の受講生をさらに増やすため、県内の小中学生向けの体験レッスンなども引き続き実施していく。		

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度 H14	事業終了予定年度
	根拠法令 いしかわ文化振興条例	
	計画等	

作	組	織	文化振興課			
成	職・氏名	主任主事 松本 隼樹				
者	電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850				

**事業の背景・目的**  
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての音楽堂において、魅力ある多彩な自主事業を実施し、石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
    - A 優れた演奏家の招聘
    - B 若手・地元芸術家の支援
    - C 音楽ファンの拡大
  - 2 事業内容
    - (1) コンサートホール(10事業)
      - ・講談・オペラ
      - ・洋邦&邦楽のコラボレーション・コンサート
      - ・ランチタイム、アフタヌーンコンサート(パイプオルガンや室内楽の公演) 他
    - (2) 邦楽ホール(5事業)
      - ・音楽堂寄席(お昼のワンコイン寄席と本格的な寄席・年1回、昼夜2公演)
      - ・松竹大歌舞伎(歌舞伎公演・年1回、昼夜2公演)
      - ・芸のかたち(日本古来の芸能による雅な舞台・年1回) 他
    - (3) 交流ホール(3事業)
      - ・ふれあい伝統芸能ランド(伝統芸能に直接触れることができるワークショップ・年1回)
      - ・音楽堂室内楽シリーズ(各種室内楽の公演・年4回)
      - ・カルチャーナビ(洋楽監督によるクラシック音楽講座や芸能講座・年5回)

計 18事業
  - 3 総事業費
 

176,000千円	
うち県補助金	15,000千円

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信				評価	A
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	258,000	262,241	246,883	321,184	255,959	260,592

事業費						
(単位:千円)		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
	決算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
一般	予算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
財源	決算	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
事業費累計		139,880	154,880	169,880	184,880	199,880

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘や、クラシックや伝統芸能のファン層を拡大するための魅力ある多彩な公演を実施することで、石川の音楽文化の振興に寄与した。 R1：18事業／25,330人 (前年度比 △3事業・+6,773人(+36.5%))
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	洋楽から伝統芸能まで、幅広いジャンルの中から県民ニーズに見合い、かつ、本県の音楽文化の振興に資する事業を精選し、質の高い公演を提供していく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度	H2	事業終了予定年度	
	根拠法令	いしかわ文化振興条例		
	計画等			

作成者	組織	文化振興課				
	職・氏名	主任主事 松本 隼樹				
	電話番号	076	-	225	-	1372 内線 3850

**事業の背景・目的**  
現代音楽の作曲や、県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

**事業の概要**  
① 芸術文化創作事業  
コンポーザー・オブ・ザ・イヤーとして著名作曲家にオーケストラ・アンサンブル金沢のレパートリーとなる現代音楽の作曲を委嘱し、新しい音楽の創造を図る。(委嘱作曲家:狭間美帆)

② 特別文化事業の開催  
バレエやオペラなど、クラシックコンサート以外の音楽愛好家も対象とした音楽文化の普及事業や、他劇場との共同制作、芸術文化創作事業により作曲された新作現代曲を披露する演奏会を開催する。  
・ミュージカルオペラ「南国の月」(フラダンス)  
日時:R1.11.23 会場:金沢歌劇座

③ オーケストラ実践講習会  
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図る。

④ ジュニア・オーケストラ育成事業  
小学校4年から中学校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与する。

⑤ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業  
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与する。

⑥ 新人登竜門コンサートの開催  
オーディション:ピアノ部門 審査委員:川瀬賢太郎(OEK常任指揮者) 他  
演奏会:R1.5.17(H30選考:声楽部門) 県立音楽堂

補助金額 10,000千円 (石川県・金沢市 同額補助)

これまでの見直し状況  
※ H17年度から地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信				評価	A
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	258,000	262,241	246,883	321,184	255,959	260,592

事業費						
(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
事業費	予算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	決算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
一般	予算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
財源	決算	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
事業費累計	335,100	345,100	355,100	365,100	375,100	

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	各種演奏会の開催により、オーケストラへの親しみと理解を深めるとともに、実践講習会やジュニア・オーケストラ等の育成事業を通じて、若手演奏家の音楽資質の向上に寄与した。 (実践講習会) 1回開催・受講生139名  新人登竜門コンサートは、多くの実力ある演奏家を発掘するとともに、優秀者はオーケストラ・アンサンブル金沢と共演する機会を得るなど、若手演奏家の大きな飛躍につながっている。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	音楽文化の普及向上を図るため、引き続き本事業を実施し、県民のオーケストラへの親しみや理解を深めるとともに、次世代を担う若手の育成に取り組む。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	伝統芸能技能向上支援事業費	事業開始年度	H25	事業終了予定年度	
		根拠法令 ・計画等	いしかわ文化振興条例		

作	組	織	文化振興課		
成	職	氏名	主事 安村 俊亮		
者	電	話	番	号	
			076	-	225 - 1371 内線 3854

**事業の背景・目的**  
 藩政期から受け継がれてきた本県が誇る財産であり、魅力でもある金沢芸妓による質の高い伝統芸能について、芸の披露の場を創出することにより、県民や観光客が気軽に鑑賞する機会の充実を図るとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図る。

- 事業の概要**
- 芸の発表の場の創出
    - (1) 事業名  
金沢芸妓の舞
    - (2) 事業内容  
県民や観光客に、金沢芸妓による芸(踊り、太鼓、お座敷遊びなど)を披露する。
      - ①会場  
県立音楽堂邦楽ホール和室
      - ②実施期間等  
令和元年10月～令和2年3月の実施期間内に年30回開催(3茶屋街×10回)  
※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年3月の公演(7回)を中止。
      - ③開催時間  
午後2時～3時(1時間程度)
      - ④出演  
ひがし、にし、主計町の各茶屋街の芸妓
      - ⑤対象者  
県民や県外からの観光客(各回定員50名程度)
- ※全30回のうち、邦楽ホールバックステージツアーを10回(月1～2回)実施  
 (「金沢芸妓の舞」終了後、30分程度)  
 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年3月のバックステージツアー(2回)を中止。

施策・課題の状況						
施策	いしかわの優れた文化の創造と発信	評価	A			
課題	いしかわの優れた文化の創造と発信					
	指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	令和4年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
	112,000	109,831	109,173	139,645	111,603	121,012

事業費						
	(単位:千円)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業費	予算	3,500	3,800	3,800	4,000	4,000
	決算	3,500	3,800	3,800	4,000	3,750
一般財源	予算	0	0	0	0	0
	決算	0	0	0	0	0
事業費累計		9,500	13,300	17,100	21,100	24,850

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> 左記の評価の理由 「金沢芸妓の舞」は、県民や観光客に、普段体験できない茶屋文化に触れる貴重な機会を提供しており、毎回、定員を上回る応募があり、好評を得ている(4割が県外・海外からの参加)。 また、芸の披露の場を確保することにより、金沢芸妓の技能向上にも貢献している。 「金沢芸妓の舞」入場者数(R1) 23回開催/1,305人(H30:30回開催/1,530人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">拡大</p> 多くの県民や観光客に、茶屋文化に気軽に親しんでもらうとともに、金沢芸妓の技能の向上と継承を図るため、引き続き、支援に取り組む。 令和2年度は、公演回数を3回増やし計33回開催し、より多くの県民や観光客に茶屋文化に触れる機会を提供する。